

# 信越化学工業株式会社

## 2026年3月期 第3四半期 決算説明電話会議要旨

日 時	2026年1月27日(火) 16:30 - 17:30
開催場所	信越化学工業(株)
会 社 側	・代表取締役社長 齊藤 恭彦
出席者	・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	<a href="#">・2026年3月期 第3四半期 決算短信</a>

\* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

### 【決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 2026年3月期 第3四半期 (2025年10-12月期)  
連結売上高： 6,494億円（前年同期比 2%減）  
営業利益： 1,640億円（前年同期比 8%減）  
経常利益： 1,900億円（前年同期比 6%減）  
当期純利益： 1,264億円（前年同期比 9%減）
- 4月からの9ヶ月間では、この7月に公表した予想に対し、おおむね8割の進捗で当該期を締めくくることができた。

### [セグメント状況]

- 【電子材料】：
  - 電子材料は、AI関連市場の拡大に伴い先端分野が引き続き好調。PCやスマートフォン等従来分野の市場がようやく底入れしたとみている。
  - 300mmウエハーの需要は昨年4-6月期以降回復基調を維持している。今後の展開は、各分野の需要と客先の在庫方針に依るものと思う。
  - 露光材料は、拡大基調を維持しており供給能力の増強と拡充を急いでいる。
  - 磁性材料は、重希土使用をさらに減らす方途を含め、原料対策に注力している。
- 【生活環境基盤材料】：
  - 北米の塩ビ需要について、2025年10-12月の国内販売は予想どおり年度末要因で減少し、業界統計によれば、当該期の国内販売は7-9月比で11%の減少となった。対前年同期比では微減だった。
  - 市況全般としては、当該期も中国からの輸出が主因で海外の需給は緩んだままだった

が、市況は底打ちした。北米市場も当該期は値段で踏み留まつた。今月から海外市場で値上げを行っているし、4月に向け三段跳びで価格の立て直しに取り組む。北米でも今月値上げを打ち出した。

- ・ ソーダ市況も 10-12 月は横ばいで推移した。今月、ソーダの値上げも打ち出した。
- 【機能材料】：
  - ・ 本事業セグメントの第一課題は、当社の強みである機能品・特殊品を格段に伸ばすことであり、そこに集中している。先回、これら製品群の割合が 3 年前と比較して、11% ポイント上昇したと申し上げたが、そこから、この第 3 四半期で約 1% ポイント更に伸ばした。
- 【加工・商事・技術サービス】：
  - ・ 当セグメントの収益は引き続き安定している。
- セグメントを通じて、AI 関連製品の拡充を図っているが、今期これまでのところ、その売上に占める割合は 15% とみている。更に伸ばすべく取り組んでいる。

#### [株式の売り出し（1月 27 日公表）と資本政策について]

- ・ 当社は一部の株主の方々と協議を重ね、この度、1,400 億円相当の売出しの合意に至った。当社株式の流動性を向上させることに加え、株主層の多様化によって、資本コストの低減を図り、更なる企業価値向上に役立つと期待している。
- ・ 併せて、本売出しの受渡し後に、昨年 4 月に公表した 5,000 億円の自己株式取得の一環として、残額約 1,000 億円の自己株式の取得を実施する予定。具体的な取得のやり方については、今後の株価水準やその他市場環境等を総合的に勘案した上で判断する。
- ・ 今後も配当を軸に総還元性向を考慮しつつ、保有資金や創出される資金は事業投資に積極的に充てていく考え。

#### 【補足説明（経理部長 笠原俊幸）】

- 【決算短信 19 ページ】：
  - ・ 投資額と減価償却費の年間予想は 4 月時点の予想から変更なし。
- 【決算短信 20 ページ】：
  - ・ 貸借対照表について、海外子会社の換算レートは、2024 年 12 月末の 1US ドル = 158.20 円に対し 2025 年 9 月末が 1US ドル = 148.90 円と円高になったため、貸借対照表の金額が減少。
  - ・ 貸借対照表の実質増減は、現預金が 1,507 億円の減少、有価証券が 908 億円の減少、長期借入金が 2,290 億円の増加で、ネット資金は前期末（2025 年 3 月末）から約 4,700 億円減少している。その他では、固定資産が 1,193 億円の増加、株主資本は主に株主還元により 2,174 億円の減少。

- 【想定為替レート】：
  - ・ 2026 年 1-3 月の想定為替レートについて、影響は国内会社の輸出入に限られるが、1US ドル=150 円程度、1 ユーロ=180 円程度。
  - ・ 年間の為替感応度は US ドルで 41 億円、ユーロで 2 億円。

## 【質疑応答】

〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの 3Q（2025 年 10-12 月期）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 300mm ウエハーの業界の出荷数量は前年比で一桁後半、前四半期比で一桁前半の伸びとなりました。200mm ウエハーは前年比では微増、前四半期比一桁後半の伸びと底入れ感が出てきました。150mm 以下のウエハーはマーケットが既に小さく、減少傾向をたどっています。</li> </ul>
Q	半導体ウエハーの今期 4Q（2026 年 1-3 月期）以降の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 半導体市場は、例年 1-3 月は需要がボトムになる期です。また、お客さま手持ちの 300mm ウエハー在庫のレベルはお客さまによってばらつきがあります。在庫保有月数の多い一部のお客さまは在庫調整を行っています。4Q の実績はその在庫調整の度合いで決まるとしています。</li> </ul>
Q	半導体ウエハーの中期的な見通し
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 向け半導体はお客さまが能力拡大を急いでいます。AI 需要の盛り上がりは産業構造の変化とみており、データセンターは今年のみならず、来年、再来年と今後も相当な勢いで作られていく予定で、ウエハー需要は拡大していくとみています。この影響もあり、DRAM は足元供給不足となっています。この状況で、特にメモリーメーカーはその需要拡大の勢いから将来のウエハー調達の確保に関心を持ち始めています。</li> </ul>
Q	AI 向け半導体に使用されるウエハーの数量動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は、AI 向けメモリーである HBM に使用されるウエハーの数量は 300mm マーケット全体の 5% 強程度で、AI 用先端ロジックも数量比率は一桁%後半です。しかし AI 向けウエハーの数量は今後相当な勢いで増えていくとみています。</li> </ul>
Q	磁性材料事業について
A	<p>(希土類磁石の価格について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原料価格連動部分とは別建ての価格体系の導入も、時間がかかっていますが、きちんと進めています。</li> </ul>

	(レア・アースの調達について) ・ レア・アースの確保は極めて重要な課題であって、複数の選択肢に鋭意取り組んでいる最中です。
Q	フォトレジスト事業について
A	・ 10-12 月と比べて、1-3 月は伸びる見通しです。

## 〈生活環境基盤材料〉

Q	4Q (2025 年 10-12 月期) のシンテックの状況について
A	・ ドルベースの税前利益について、4Q は 3Q (2025 年 7-9 月期) と比べて減益となっています。主因は大型定修があったことで、値段の下振れも要因となりました。
Q	来期 1Q (2026 年 1-3 月期) 以降のシンテックの状況について
	(北米の価格について) ・ 塩ビについて、ある程度、年初の価格調整を余儀なくされましたが、最小限に食い止めることができました。また、1 月に入ってポンド当たり 5 セントの値上げを打ち出しました。これはまだ確定していませんが、満額ではないにせよ、ある程度は通る感触を確かに得ています。5 セントのうち値上げしきれなかった分は、2 月に再度値上げに取り組むことになります。
	(北米以外の価格について) ・ 既に 1 月から塩ビの値上げを通しました。また、2 月以降も値上げが通っており、底打ちしました。これまで価格が下がり過ぎており、各社が値上げをしないといけないと考えていたところに、中国の増值税還付制度の見直しや新增設の一段落、Westlake 社の設備停止など、契機となる事象が複数あり、当社が先陣を切って値上げに取り組みました。同業他社もこれに追従しています。
	(生産について) ・ 基本方針として、フル生産、フル販売は変わっていませんが、今、喫緊の課題は値上げであり、それが優先されるということです。 ・ 天然ガスの市況は相当上がっていますが、エタンはそれほどではありません。
Q	北米の塩ビ市場の状況について
A	・ 例年、12 月に北米のお客さまが塩ビの購入量を絞り込み、1 月に需要が戻るということがあります。今年については、1 月の需要の戻り方が去年と比べるとやや弱いです。お客様が慎重に計画を組んでおられるようですが、春

	<p>以降の需要については悲観していません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最近の寒波等の影響で、当社は部分的な設備上の支障で減産し、同業他社で工場を事前に一時停止したところもあります。また、当社はこの春にレジンの工場の一つを定修します。これらの要因で需給環境はある程度改善するとみています。</li> </ul>
Q	シンテックの次期設備投資（原料工程）について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の最後の詰めをしているところです。</li> <li>収益性が 10 年前に戻つていいということにはなりません。実際、当社はこれまでそれなりに採算の改善があったからこそ投資ができました。今後の再投資のためにも収益性の改善が必須であるということです。</li> </ul>

## 〈全 社〉

Q	AI 関連製品について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI 関連製品群の全社売上に占める割合は約 15%とみています。</li> <li>製品の内訳はフォトレジスト、マスクブランクス、シリコンウエハーといったところが大処で、それに続くのが HDD に使用されるマグネット、シリコーン、光材料などです。塩ビもデータセンターで使用される配管、電線ケーブルに使用されています。</li> <li>これらの製品を伸ばすために、必要な投資を行っていきます。フォトレジストについては、伊勢崎の新拠点が 4 月に稼働する予定です。</li> </ul>
Q	調達リスクについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接の供給先だけではなく、供給先のその先まで踏み込んで調査し、リスクの軽減に取り組んでいます。</li> <li>特定の国に依存しないように、内製化を含めて多角的に取り組んでいます。</li> </ul>